

宿題でつくり始めた歌だけど そこにかがやくあの日の景色

短歌のルールは大きくは1つ、

5 + 7 + 5 + 7 + 7 = 31音に収めるだけ。

俳句のような「季語（きご）」は不要、
話し言葉（口語）でももちろんOK、
少しくらい多くなっても（字余り）構いません。

かたちはあとから整えられるので（推敲^{すいこう}）
まずは、最近一番印象的だった出来事を
短歌にしてみましょう。

うれしいこと、たのしいことだけではなく、
かなしいこと、くやしいこと、あるいは
自分でもわからない気持ちでも短歌になります。
このときのポイントは、「たのしい」「かなしい」
という言葉ができるだけ直接使わずに、
その心境や状況を表現することです。

かの時に言ひそびれたる
大切な言葉は今も
胸にのこれど

たくぼく
石川啄木

街路樹のひとつひとつを見て歩き
どれもオレより孤独とおもう

よしお
工藤吉生

金曜の六時に君と会うために
始まっている月曜の朝

たわらま ち
俵 万智

小鳥きて少女のやうに身を洗ふ木かげ
の秋の水だまりかな

与謝野晶子

短歌をつくろうとしたとき、歌を届けたい人の顔が思い浮かぶ人は、その人に伝わるかどうかを想像してつくってみてください。思い浮かばない人は、自分が最初の読者になった気分で、歌の意味がわかるか確かめてみてください。

短歌は詩や小説と違い、31音しかありません。言いたいことをあれこれと詰め込みすぎないで、できるだけシンプルな構成にしてみましょう。

なんとなくできたら、つくった短歌を声を出して読んでみましょう。読みにくかったりリズムの悪いところは、別の言葉に置き換えたり順序を変えてください。これが推敲です。

最後に、誤字・脱字のチェックをして、
ていねいな文字で書いてくださいね。

なーんにも思いつかない人は、あたりを見回して、5音や7音になる言葉を拾ってみてください。そこから短歌が生まれるかもしれませんよ。

与謝野晶子倶楽部青春の短歌大会最新情報など
与謝野晶子倶楽部HPはこちらから